

博士学位論文審査報告書

大学名	早稲田大学
研究科名	スポーツ科学研究科
申請者氏名	霜島 広樹
学位の種類	博士（スポーツ科学）
論文題目	民間テニスクラブのスクール生に対する競技会参加および競技観戦プログラムが与える影響－クラブマネジメントへの活用可能性の観点から－ The Effects of Competition and Spectating on Members of a Tennis School: Implications for Club Management
論文審査員	主査 早稲田大学教授 リー トンプソン 学術博士（大阪大学） 副査 早稲田大学准教授 作野 誠一 博士（学術）（金沢大学） 副査 早稲田大学准教授 松岡 宏高 Ph.D.（オハイオ州立大学） 副査 早稲田大学教授 木村 和彦

学位論文申請者（以下、申請者と言う）は、博士課程に入学する以前から、民間のテニスクラブにおいて、長年にわたりインストラクター（テニス指導者）として携わって来ている。本研究の動機は、そのようなスポーツ指導実践の経験と各種データが示す民間テニスクラブにおけるマネジメントに関する課題と密接に関係している。例えば、民間テニスクラブのスクール生は、「テニスを競技（テニス）というスポーツとして楽しんでいるのだろうか」むしろ「主に健康のための体操の一種として取り組んでいるのではないか」といったテニス参加動機に関する疑問や、日本テニス協会が実施した「テニス人口等環境実態調査報告書（2012）」が示す、過去10年間における長期的なテニス人口の減少という危機感に対する、若手研究者でもあり実務家でもある申請者の探究心が研究動機となっている。

本論文は、4章構成となっている。第1章は、前述した研究の背景と動機、先行研究の検討と研究目的を記述している。スポーツマネジメントはもちろんのこと、動機や態度を中心としたスポーツ心理学的研究のレビューを踏まえて、民間テニスクラブにおいて「テニススクール生の競技会への参加が、テニスへの参与にどのような影響を与えるのか実証的に検証すること（研究1）」と、「テニススクール生の競技観戦プログラムへの参加が、テニスへの参与にどのような影響を与えるのか実証的に検証すること（研究2）」を研究の目的として設定している。すなわちテニスの競技性に注目し、研究1（論文の第2章）では、競技プログラムへの参加（実際の研究では、S区民大会への参加）が、テニスの「参加動機」、「継続意図」、「観戦意図」、「参加頻度」に対する影響を検証している。また研究2（論文の第3章）では、競技プログラムの観戦（実際の研究では、インストラクターのエキシビジョンマッチの観戦）が、「テニスコミットメント」、「あこがれ」、「テニスに対する態度」に対する影響を検証している。

その結果、研究1では、テニス競技会への参加が、実施者のテニス参加動機、実施頻度、継続意欲に影響を及ぼすことが明らかとなった。また、競技会への参加が与える影響について

て縦断的に明らかにしたことは、テニスの普及のみならず、民間テニスクラブのマネジメントなどへの拡張性を考える上で、重要な知見であると考えられる。また研究2では、「テニスコミットメント(観る)」とテニスコーチへの「あこがれ」に関しては、観戦前と観戦後において統計的に有意な向上が見られた。この結果から、エキシビ観戦によってテニス実施者のテニス観戦へのモチベーションが向上する可能性が示された。さらに「テニスへの態度」に関しては、「テニスをするのが好き」、「テニスをするのは楽しい」には観戦前後で統計的有意性は確認されなかったが、「テニスを観ることが好き」、「テニスを観ることは楽しい」には有意な向上が確認された。エキシビ観戦によって、テニスをするのが好きになったり、楽しみを感じるようになったりする可能性は低い、テニスを観ることに対しての態度は大きく変容することが示唆された。

以上の実証的かつ縦断的な分析結果を踏まえ、第4章では、民間テニスクラブのマネジメント実践の改善に向けたインプリケーションや学術的な成果、研究の限界と今後の研究の課題についてまとめられている。実践的には、研究1、2から、競技会への参加に関しては、テニススクール生の実施頻度や継続意図の向上に貢献することが明らかとなり、競技会を有効に活用することで、テニススクール生のレッスン受講回数の向上や、退会率の減少に貢献できる可能性があることを指摘している。また、競技会そのものにおいてもエントリーフィーによる収益を得られるという点で、マネジメントする側にとって有益なプログラムになり得る可能性を示唆した。競技観戦(エキシビ観戦)に関しては、今回の研究で実施・観戦への意欲の向上に及ぼす効果が検証され、コーチへの尊敬を高めたり、心理的距離を縮めたりするといった点においても、クラブマネジメントにとって有効なプログラムになり得ることを指摘した。また、プロモーションにおいて大きなコストをかけなくても一定の観戦者を集めることができる可能性が高いという点からも、エキシビ観戦の後に、レッスンプログラム等を開催したり、エキシビ観戦プログラムをクラブのイベントとしてより充実させ観戦料金を徴収したりする戦略の有効性を示唆した。

申請者が研究の限界と今後の研究課題においても自ら指摘しているように、今回の研究において、様々な制約から影響を測定する時点が、競技会参加直後やエキシビ観戦直後になってしまったことによって、これらの影響が果たして、持続的な影響であるかどうかは不確かなままである。しかし、明らかに、たとえ一時的にしても、影響が実証的、縦断的に確認されたということは、長期的参加者の減少という危機に直面している民間テニスクラブの経営実践に対する有用な知見を得られた研究であると評価できる。また、学術的にも縦断的かつ定量的な分析が少ないスポーツマネジメント分野において、意欲的かつ独自性のある研究として一定の評価をすることができる。

以上の審査の結果、本申請論文は、博士(スポーツ科学)の学位を授与するに十分値するものと認める。

〈 掲載論文 〉

霜島広樹, 木村和彦: 2013, テニス競技会への参加がテニス参加者に与える影響: 参加動機・継続意図・参加頻度の観点から, スポーツ産業学研究, Vol.23, No.1, pp.89-99.

霜島広樹, 木村和彦: 2013, テニスクラブ生を対象としたコーチによるエキシビジョンマッチが観戦者に与える影響: クラブマネジメントへの活用可能性の観点から, スポーツ産業学研究, Vol.23, No.1, pp.19-32.

霜島広樹, 木村和彦: 2013, 参加動機が観戦意図に与える影響に関する検討: テニスを事例にして,

スポーツ科学研究, Vol.10, pp.12-25.

霜島広樹, 木村和彦 : 2012, テニス参加者の観戦阻害要因に関する検討 : 国内2大プロトーナメントに着目して, スポーツ産業学研究, Vol.22, No.2, pp.311-321.

以 上